

## 6324 ハーモニック・ドライブ・システムズ

長井 啓 (ナガイ アキラ)

株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズ社長

### グローバル生産能力を大幅に引き上げる

#### ◆需要増加とドイツ関連会社の子会社化により前期比大幅増収

執行役員 上條 和俊

2018年3月期の連結売上高は、増産に向けた取り組みが功を奏し、予想を若干上回った。営業利益および経常利益は予想を若干下回っており、ドイツの関連会社の子会社化に伴うのれんと無形固定資産の償却費が主な要因である。正式な取得原価の配分手続き完了に伴い、のれんから固定資産に再配分した金額が想定した金額を上回った。また、税効果会計に伴って繰延税金資産を計上したことものれんの増加につながった。さらに、公募増資に伴って外形標準課税など販管費が増加した。

前期比では、産業用ロボット向けを筆頭とする需要の増加に加え、ドイツ関連会社ハーモニック・ドライブ・アーゲーの子会社化もあって大幅な増収となった。営業利益も大幅に増加しており、固定費の負担増を増収で補い、過去最高の利益を更新した。

主要グループ会社の実績として、米国子会社のハーモニック・ドライブ・エルエルシーについては、半導体製造装置、医療機械、工作機械向けが順調に推移し、増収となったが、研究開発費の増加により、利益はほぼ横ばいとなった。精密遊星減速機を製造しているハーモニック・エイディは、モーターメーカー向けギアヘッド、産業用ロボット、半導体製造装置向けが順調に推移し、増収増益を達成した。中国子会社の哈默納科(上海)商貿有限公司は大手ロボットメーカーからの受注によって大幅な増収となり、黒字に回帰した。ドイツ子会社のハーモニック・ドライブ・アーゲーは産業用ロボット向けが高水準で推移したほか、人と並んで作業する協働ロボット向けも好調に推移し、増収増益となった。

単体についても大幅な増収増益となった。用途別売上高の状況として、半導体製造装置はデバイスメーカーの積極的な増産投資の恩恵を受け、さらに微細化、積層化といった先端投資にも支えられ、主に前工程のお客様からの受注が好調であった。FPD製造装置では、中国メーカーの液晶・有機ELへの投資が堅調に推移した。産業用ロボットは、労務費の高騰、人手不足といった社会的背景が需要を押し上げており、特に組立・搬送系の小型・垂直型やスカラ型ロボットが好調であった。モーターメーカー向けギアヘッドについても、大手サーボモーターメーカーの好調を受けて堅調に推移した。

単体の営業利益の増加要因としては、増収の影響で67億93百万円増となった。一方、減少要因としては、製造固定費が増加しており、設備投資に伴う減価償却費の増加、人員増に伴う人件費の増加に加え、業績連動となっている賞与の引き当てが増加した。販管費の増加は、梱包発送費、マーケティングコスト、外形標準課税などの増加による。

#### ◆健全な受注調整により納期を正常化

2019年3月期の連結売上高については、高水準の受注残の消化に加え、従来型の産業用ロボットおよび協働ロボットの需要増、生産能力の引き上げが増加要因となる。なお、新工場(有明工場)については、1号棟が3月か

稼働し、2号棟も8月に竣工・秋口からの稼働を予定している。

利益面では、設備投資や人員増などにより固定費負担が高水準となるが、増収に伴って増益となる見込みである。営業利益率も改善を見込んでおり、売上増に伴う操業度の向上、償却費の減少が主な要因である。償却費については、ドイツ子会社ハーモニック・ドライブ・アーゲーの無形固定資産のうち、償却期間1年のもの(約7億円)が前期で完了した。設備投資は過去最高の240億円を見込んでおり、クロスローラーベアリングの工場建設(松本市)、有明工場の建屋建設・生産設備が主な内容である。

主要グループ会社の見通しとして、米国子会社ハーモニック・ドライブ・エルエルシー、ハーモニック・エイディ、ドイツ子会社ハーモニック・ドライブ・アーゲーは引き続き堅調に推移する見込みである。中国子会社の哈默纳科(上海)商贸有限公司については、営業体制の強化などによる販管費の増加、セールスマックスの変化により増収減益を見込んでいる。

単体の受注高は、主要用途全般の需要の盛り上がりに加え、生産能力を上回る受注によってリードタイムが長期化したことが顧客の先行発注につながり、2018年3月期末時点で過去最高となった。今期は、生産能力の引き上げにより、顧客の先行発注が落ち着くと見ているため、健全な受注調整を行いながら納期を正常化していきたい。売上高は、上期が235億円、下期が265億円と予想している。営業利益については、製造固定費、販管費の負担増が継続するものの、増収に伴う限界利益の増加により、増益となる見込みである。

## ◆新中期経営計画がスタート

社長 長井 啓

前中期経営計画の最終年度となった2017年度は、売上・利益ともに当初計画を大幅に上回った。波動歯車装置ハーモニックドライブ®、メカトロニクス製品、精密遊星減速機をバランス良く伸ばし、創立50周年となる2020年度に連結売上高500億円を達成したいと考えていたが、結果として前倒して達成できた。計画を上回った主要因は、中国を中心とした産業用ロボットの需要増に対する減速装置の引き合い増加である。また、ドイツの関連子会社を完全子会社化したことで、100億円を上回る増収効果が得られた。

2018年度からスタートした新中期経営計画では、初年度685億円、2020年度1,000億円の連結売上高を目標に掲げた。2020年度までに、日本で2倍の成長、欧州でも約65%増を見込んでおり、アジアでも大きな伸びが期待できる。営業利益は2018年度に174億円、2020年に260億円を想定している。3カ年の設備投資は、前中期経営計画の約4倍を予定しており、有明工場、米国の新工場などに投資を行う。研究開発費については、SRIと共同開発している新たな減速機の商業化などにより、前中期経営計画の約2倍とする計画である。

主要用途の動向として、産業用ロボットについては、2020年に向けて年率15%で市場が拡大すると見られている。協働ロボットも成長が期待されており、これまでは一部の専門メーカーが先行しているという状況であったが、新たなプレイヤーも出てきた。

半導体製造装置については、大容量化に伴って、積層構造、微細化への設備投資が旺盛である。また、AI、VRに使用する半導体の需要が増加し、今後5G関連の投資も本格化していこう。メモリについても、HDDからSSDにトレンドが変化しているため、一定の伸びが期待できる。液晶・有機EL製造装置については、新型スマートフォンが有機ELパネルの採用を見送ったこともあり、中小型有機ELパネルの成長が鈍化しているが、増産投資は継続しているため、当社グループの成長ドライバーになると見ている。

## ◆2030年、2050年に向けた成長の布石

2020年のありたい姿は「モーション・コントロール業界における唯一無二の存在」であり、目指すポジションは「独創的な技術で信頼されるアクチュエーターメーカー」、「精密減速機分野のリーディングカンパニー」である。新中期経営計画の基本方針としては、グローバル生産能力を大幅に引き上げる。また、グループ各社の能力を引き上げ、

総合力を強化していく。さらに、QCDS 能力の引き上げによる顧客満足度の向上、成長を支える経営基盤の強化を図る。

波動歯車装置ハーモニックドライブ®の生産状況として、日本においては穂高工場の生産能力が、直近では月産 10 万台に近づいている。有明工場では、既存の建屋を活用しつつ、新工場も建設する予定であり、穂高工場と合わせて、2020 年までに月産 20 万台体制を構築する。なお、新工場にはロボット向け以外の用途にも 12 万台～15 万台の生産能力を付与する予定である。ドイツの生産能力は月産 1 万台となっており、2020 年までに 3 倍～5 倍に引き上げる。米国については、新工場の建設により、2020 年に月産 1 万～3 万台を目指す。

クロスローラーベアリングについては、長野県松本市にハーモニック プレシジョンの新工場を建設中である。直近の生産能力は月産 7 万台だが、2020 年には 15 万台まで引き上げる。ドイツでも自社生産を開始し、月産 1 万台まで生産できる体制となった。以上により、現在の受注残および将来の需要増に対応できると考えているが、量を伸ばすだけでなく、自動化ラインの拡充など、生産性の改善にも取り組んでいく。

精密遊星減速機については、モーターメーカー向けギアヘッド、半導体製造装置、産業用ロボット向けなど、用途が拡大しているため、ハーモニック・エイディの生産効率向上を図る。また、韓国子会社の三益 ADM でも増産を計画している。

QCDS 能力の引き上げについては、リードタイムの正常化・短縮を図る。また、技術提案力、対応力、サポート体制をさらに強化していきたい。経営基盤の強化については、人材の確保・育成に力を入れる。地元以外からの採用を進めるべく、当社初となる社宅の整備を計画に織り込んだ。また、IT を活用した経営プラットフォームの充実も重要な課題となる。

長期ビジョンとしては、2030 年、2050 年に向けて成長の布石を打つ。当社グループは、産業界におけるイノベーションとライフスタイルにおけるイノベーションへ対応する形で業績を伸ばし進歩してきた。今後は、社会の変革スピードが加速する中、アンテナを高くし、創造的破壊にも挑戦して、変化を先取りできる組織風土を醸成していきたい。一例として、SRI と共同開発しているアパカスドライブは波動歯車装置に代わる可能性がある製品である。SRI とはこのほかにも新たな市場が期待される製品の共同開発もスタートした。また、新素材・新原理にもチャレンジすべく、研究機関との協業も進めている。

(2018 年 5 月 18 日・東京)

**\* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見るができます。**

[http://www.hds.co.jp/ir/data/briefings/pdf/h3005\\_setsumeikai.pdf](http://www.hds.co.jp/ir/data/briefings/pdf/h3005_setsumeikai.pdf)